

平成 31 年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査について

（本調査は、全国悉皆調査で第 6 学年児童を対象に 4 月に実施されたもの）

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 物語文では読み取った内容をもとに、自分の考えを分かりやすく書く力が身に付いている。
- 漢字の書き取りやことわざの活用など、言語活用の知識技能が身に付いている。
- 説明文では、目的に応じた内容を読み取ったり考察を述べたりすることに課題がある。

【算数】

- グラフの特徴を読み取り、その傾向を記述する資料活用の力が身に付いている。
- 単位量あたりの大きさに着目して考えたり、伴って変わる 2 つの数量を整理したりするなど、数量関係領域の理解がよくできている。
- 加法減法が混合した計算処理や計算のきまりの適用など、数と計算領域に課題が見られる。

2 児童（生徒）質問紙に関する結果の概要

- 地域行事に参加するなどして地域のよさを知り、多くの人に伝えたいと考えている児童が多い。
- 周りの人にほめてもらい、自分にはよいところがあると感じている児童が多い。
- 学校のきまりを守る意識に課題がある。
- 朝ご飯をきちんと食べる習慣、決まった時刻に寝る習慣に課題がある。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・アウトプット（特に「書くこと」）を中心にした授業の検証・改善の推進。
- ・週 3 回、掃除後の 10 分間を使った読書活動タイムの設定。
- ・個に応じた学力補充。

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・一人一人に考えを書かせ、確実に全員が交流活動に参加できるようにした授業の推進。
- ・算数の授業の終わりに、練習問題を解く時間を設定する。
- ・学期末に行う校内漢字テストに向けた計画的な指導と定着の徹底。
- ・物語以外の本への関心を高める読書活動の推進。

(2) 児童（生徒）質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・保護者・地域・学校での「子どもを励まし、賞賛しよう」という目標の共有と広報新聞による啓発。
- ・地域資源を活用した生活科や総合的な学習の時間、および学校行事の推進。
- ・土曜授業での地域人材の活用による計算力の定着と意欲の増進。

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・P T A 活動（生活力アップ期間・宿題忘れゼロ期間）の啓発強化。
- ・道徳科の授業を計画的に行うことを軸に、道徳性を高める。
- ・長糸っ子 6 つの力（考える力・伝え合う力・判断する力・プラスの力・挑戦する力・やりとげる力）を意識した教育活動の推進と子どもへの指導・言葉かけ・評価の徹底。